

セイノーロジックス

米国向け冷蔵混載海上輸送を提供へ

食品輸出に特化、11月開始

セイノーロジックス（本社・横浜市西区、有馬隆広社長）は、海運業界で初となる。

4日、食品輸送に特化した「アメリカ LOS ANGELES 向けひんやり混載サービス」の提供を11月から開始すると発表した。東京港から米国・ロサンゼルスまで食品を海上混載便で冷蔵輸送する。なお、海上混載便によ

トを抑制できる。荷受地は松岡の東京 Central DC 保税蔵置場（川崎市川崎区）。開始本船は東京発が11月22日、ロサンゼルス着が12月4日となる。配船はまず Monthly の定期便から開始し、需要に応じて増便する。

セイノーロジックスではかねてから、東京港、神戸港、博多港から香港、基隆、シンガポール向けに冷蔵海上混載サービスと冷凍海上混載サービスを提供している。今回のサービス開発にあたり、米国で駐在員と現地代理店が協力し、現地に信頼性

醍醐倉庫

バザール「道々橋の蔵出し市」を開催

顧客、社員、地域に貢献

醍醐倉庫（本社・東京都大田区、醍醐正明社長）は5日、「第21回道々橋の蔵出し市」を開催した。荷主の滞留在庫をリーズナブルな価格で販売する恒例のイベントで、当日は小雨が降りそうな予報にもかかわらず、朝10時のオープン前から、掘り出し物を探しに来た地域の人たちの長い列ができていた。

同社は「物流を通して社会に貢献する」を企業理念とし、「お客様」「社員」「地域」の3つへの貢献を目指している。荷主の滞留在庫を倉庫で販売することで地域と荷主に貢献するバザールは、醍醐倉庫の理念を体現するイベントと位置付けられ、毎年10月に開催されている。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、昨年から焼き鳥、地元B級グルメの「東京大田汐焼きそば」など飲食ブースも再開。コロナ前に行っていた餅つき大会は今回も見合わせた。が、ゆきがや太鼓のパフォーマンス、大抽選会は継続。骨密度測定や肌年齢チェックのブースも設けられ、冬季五輪を目指す「下町ボブスレー」も展示した。

開催にあたり、ちらし1万5000枚を配布。醍醐社長は「天気予報で雨が予想されていたため、どうなるか心配していたが、朝9時から並んでくれていた人もあり、バザールを楽しみにしてくれていることを嬉しく思う」と挨拶し、自ら入口に立って来場者を迎え、荷主から供出された廃番商品を来場者一人ひとりに手渡した。

今回の出店数は12社で、醍醐倉庫の荷主を中心に、アパレル、革カバン、時計、アクセサリーなど。醍醐氏と経営者同士のネットワークで親交のあった、冷凍冷蔵倉庫・総合食品卸の千代田も自社企画の商材を販売。醍醐倉庫のバザールで冷凍冷蔵品が出店するのは初めてで、来場者の注目を集めていた。



地域の人たちでにぎわいをみせた

の高い保冷施設を確保した。また、米国ならではの厳しい輸入規制に対し、専門コンサルタント業者と提携して、米国の食品輸入規制に確実に対応できる輸送体制を確立した。

セインロージックスでは「これまで航空便やFCLを利用して食品を輸出していたお客様に、便利にご利用いただける新たな輸送の選択肢となる。現在は冷蔵品に限定し、配船数や取

扱品目に制限があるが、今後は冷凍品に関しても需要に応じたサービスの開発に取り組み、多くのお客様に満足いただけるサービスを提供できるよう利便性向上を目指す」としている。

ゲオ 宅配型トランクルーム サービスのエリア拡大

ゲオ（本社・名古屋市中区、吉川恭史社長）は、配送無料の宅配型トランクルームサービス「2nd STORAGE（セカンドストレージ）」のサービス対象エリアを7日から拡大した。これまでは東京23区限定だったが、サービス対象エリアを東京都（離島を除く）・横浜市・川崎市へと拡大し、利用者数の増加を目指す。

ゲオグループでは、ゲオやセカンドストリートなどの事業で提供している「買う」「借りる」「売る」というサービスに加え、

「預ける」領域まで対応することによるグループ内のシナジーとサービスの成長性を見込み、「2nd STORAGE」を2022年3月から東京都内4区で試験的に開始。その後サービス対象エリアを同年10月から東京都内8区、23年9月から東京23区全域へと順調に拡大してきた。

「2nd STORAGE」は宅配を活用することで自宅で荷物を預入・受取するだけという便利さと、月額費用のみで管理された環境に保管できるのがメリット。段ボールに入らない季節家

電やハンガーに掛かったままの衣料品など幅広く対応できる。保管施設（写真）は、年間を通じて空調・湿度が一定に管理され、セキュリティについても万全の環境が整っている。



フジトランスポート

都城市でラップینگトラックお披露目

フジトランスポート（本社・奈良県奈良市、松岡弘晃代表取締役）は宮崎県都城市を全国にPRするため、都城市の観光、物産のデザインを施したラッピングトラックを制作した。トラックの完成に伴い、4日に道の駅「都城 NOOL」でお披露目式が行われた。

当日は、池田宜永都城市長、フジトランスポートの松岡代表取締役、井上豊執行役員九州営業部部長、石崎元己都城支店支店長が出席した

松岡氏は、「当社は2年前に都城市に拠点を構えた。2年が経ち、地元の従業員も増え、都城市の様々なお客様からお仕事

をいただき、都城から全国にトラックを走らせている。当社は

